

## 地域のとりくみ



平成 29 年 11 月 12 日 (日) に布野町の旧横谷小学校で開催された「よこたにワンダーランド 2017」。今年は会場全体を「妖怪にのっとられた」として、妖怪にちなんだゲームやワークショップ、フードなど、工夫して手作りの「妖怪の世界」が創り出され、多くのファミリーが妖怪の世界を楽しまれたようです。



▲稲生物怪録の妖怪をモデルにした「顔はめハネル」。



第 4 回の「三次地区の文化・観光まちづくりを進める会」を開催し、取り組むプロジェクトを次の 5 つに決定しました。

- 1 景観・美観
- 2 回遊性の向上
- 3 歴史・文化・芸術の保全・伝承
- 4 きんざい (おもてなし)
- 5 情報収集・発信

今後は、プロジェクトごとに具体的に取り組むことを話し合い、実行していきます。



▲「進める会」会議の様子。

～妖怪を生かした文化・観光まちづくりをめざして～

# もののけだより

vol.3 平成 30 年 1 月

## 妖怪を生かした文化・観光まちづくりに向けて 市民委員会から「提言書」が提出されました



平成 29 年 6 月に「三次市妖怪を生かした文化・観光推進市民委員会」を設置し、妖怪を活用した文化・観光まちづくりをテーマに、様々な観点から委員の皆さんにより、①魅力ある観光、②文化の伝承・発信、③魅力ある施設・その他事項の 3 つの分科会を含め、合計 7 回にわたり議論を重ね、その結果として、三次市が市民や市内関係団体と連携のもとで取り組むべき事項として「提言書」がまとめられ、細川喜一郎委員長から 11 月 20 日に増田市長へ提出されました。



▲青陵高校の生徒も委員として参加。稲生物怪録を現代風のキャラクターでストーリー立てをするなど、提案。



▲分科会では、委員のお子さんが作った、約 19 メートルにもわたる「稲生物怪録」の絵巻を披露する場面も。



▲細川委員長から提言書を受け取る増田市長

稲生物怪録は三次の誇るべき歴史的文化遺産であり、これまでも多くの市民がオペラや神楽、また絵画など様々な文化・芸術の素材として、またイベントやお祭りに活用してきました。湯本豪一さんの妖怪資料コレクションの寄贈を受けたことを好機と捉え、様々な取組の提案が盛り込まれています。その一つひとつが議論の成果です。それらをまとめた方向性として、6 項目の柱が提案されました。

## 三次市妖怪を生かした文化・観光まちづくり提言 6 項目の柱

- 1 たくさんの人を巻き込んでいく広報
- 2 教育・文化活動で妖怪を活用
- 3 妖怪と三次の歴史・文化・風土との融合
- 4 子どもからお年寄りまで、みんなが楽しめる場所づくり
- 5 おもてなし環境の整備
- 6 市内に広く好影響を及ぼす工夫

平成 29 年 11 月 20 日  
三次市妖怪を生かした文化・観光推進市民委員会  
委員長 細川 喜一郎

今後、(仮称)湯本豪一記念日本妖怪博物館(三次もののけミュージアム)がより魅力的な施設になるよう進めながら、この提言書をもとに、市民や関係団体と連携して、一つでも多くの提言を実現に向けて取組を進めていきます。

## 湯本豪一コレクション紹介

お正月にもピッタリな、思わず遊んでみたくなる妖怪資料を紹介します！



「提灯お化けの江戸独楽」昭和時代  
お化け提灯の中に、かわいい妖怪たちの独楽が入っています。



いしゅうおんだて  
「杵州鬼風」昭和時代

長崎県の伝統工芸品の絵巻で、鬼退治伝説をもとにした、鬼と武者との格闘を描いています。



「お化けカケルタ」明治時代以降



## もののけメールマガジン会員募集中！

「(仮称)湯本豪一記念日本妖怪博物館(三次もののけミュージアム)」の開館に向けて、「もののけ(妖怪)」や当博物館に興味・関心がある方などを対象に、関連情報をご提供するメールマガジンの配信を行います。ご希望の方は、右の QR コードを読み込み、空メールを送信してください。登録手続きのための確認メールが届きますので、必要事項を登録してください。※受信設定をしている場合は、ドメイン「@y.bmd.jp」を受信指定してください。



編集後記



「よこたにワンダーランド」では、地域と市民の皆さんが、妖怪の世界を創り出すことを楽しみながら、準備されていた様子で印象的でした。少し前のことになりましたが、市内の子どもたちが夏休みの自由研究で、稲生物怪録絵巻を作ったり、妖怪新聞を作ったりして、報告をしてくれました。11/26 に開催したイベントでは、「妖怪って実はおもしろい?」「かわいいかも」と思った人も多かったのではないのでしょうか。私のお気に入りの妖怪は、湯本コレクションの中の、まだ謎の多いおどけた妖怪、「人面草紙」です。稲生物怪録の中からでも、湯本コレクションの中からでも、お気に入りの妖怪を見つけて、その世界観を楽しんでみませんか。(特命担当:HK)

【問い合わせ】三次地区拠点整備事業プロジェクトチーム  
事務局 三次市政策部特命担当 TEL: 0824-62-6408 FAX: 0824-62-6137  
E-Mail: tokumei@city.miyoshi.hiroshima.jp



# イベント「みよしものけものがたりⅢ ～妖界においでよ！～」

平成 29 年 11 月 26 日 (日)、三次市民ホールきりりで、妖怪イベントを開催しました。

## 湯本豪一コレクション展示会



サロンホールで、湯本豪一コレクション展示会を開催しました。寄贈された資料のうち、約 80 点を初公開し、家族連れや県内外から来られた多くの方々に見ていただきました。

### 展示会場の様子をレポート！！

#### 第一章 妖怪へようこそ 絵巻



「化物嫁入り絵巻」



「相馬の古内裏」

#### 第二章 妖怪文化の広がり 錦絵、本、工芸品・衣類等



中央「百鬼夜行図着物」  
下「名古屋帯」「茨木童子図」



「河童マトリョーシカ」

絵巻や錦絵は、江戸時代のものとは思えないと驚かれています。また、普段私たちが使う生活用品の中にも妖怪が登場しています。根付、着物、玩具など、「こんなものにも！」と子どもたちと一緒に楽しんでいただいたほか、地元へ伝わる稲生物怪録の関連資料も興味津々に見られていました。初めてのコレクション展示ということもあって、「すごいものが見れた」「博物館の開館が楽しみ！」などの、感想をいただきました。

#### 第四章 妖怪は現代へ 玩具、映画ポスター



「不二丸お化け双六」



「百物語絵巻」

#### 第三章 稲生物怪録の世界 絵巻、本、皿・玩具



### 湯本豪一さんによる展示解説も大人気

妖怪研究家の湯本さんの解説が聞けるとあって、多くの方が会場に集まり熱心に話を聞かれました。「妖怪は恐れられる存在から、時代ごとの文化を反映しながら親しみのある存在として、市民の生活に根付いてきた。怖いだけでなく、面白い、または可愛らしい姿で描かれるようになり、玩具にも妖怪が登場してきたのは、子どもたちにも長く親しまれてきたからであることが、資料を見てわかる」とわかりやすく、話されました。

## トークイベント

「“妖怪”においでよ - 稲生物怪録の世界 -」

### ◆ゲスト

妖怪研究家	湯本豪一さん
タレント	はるな愛さん
三次市在住の小説家	佐々木裕一さん
三次市在住の漫画家	宇河弘樹さん



オープニングとして、はるな愛さんが、はるな愛流全人種“肯定応援”歌謡ソング「ええねん」を熱唱されました。煌びやかな衣装で、歌の中にアドリブで「三次」を取り入れるなど、会場を盛り上げてくださいました。以前、テレビ番組で三次市を紹介して下さったはるな愛さん。その縁で今回スペシャルゲストとしてお迎えしました。



### 妖怪・ものけ・湯本コレクション

湯本豪一さんの妖怪資料コレクション（以下、湯本コレクション）の写真を交えて、怖いもの、気味悪いものから、可愛いもの、面白いものまで、幅広い妖怪の世界を紹介しました。そのひとつ、「神農鬼が島退治絵巻」は、妖怪退治のために芋や栗を食べ、「おなら」で退治をするという展開に、会場が笑いに包まれました。怖いものという印象が強い妖怪ですが、湯本コレクションや妖怪の世界には、このように笑いを誘うもの、かわいらしい形態のものなど、親しみのわくものも多くあります。

▲「妖怪の世界のように、人間の世界にもいろんな人がいます。妖怪が生まれ、共存してきた三次の風土は、それを受け入れる懐の深さのようなものがあり、私を温かく迎えてくれました」と、はるな愛さん。



◀ 神農鬼が島退治絵巻



▲ 湯本豪一さんと はるな愛さん。

### 稲生物怪録が生まれた三次

三次を覆う「霧」が、三次市で妖怪物語が生まれたきっかけとなったのではないかと、共通のご意見でした。山の上から「霧の海」を眺めると、その下に人々が生活していて、その様子は見えないが、音はかすかに聞こえてくる、何か怪しげなことが起こっても不思議ではない雰囲気を感じられるようです。昔の人も、そういうところから、想像力をかきたてられたのかもしれない。



◀ 佐々木裕一さんの小説「ものけ侍伝々」シリーズ。江戸時代、妖怪退治を命じられた平太郎。「稲生物怪録」を知らない人でも読み進めやすく、その世界がスッと入ってくる。



◀ 宇河弘樹さんの漫画「朝霧の巫女」。全9巻の表紙は全て、稲生物怪録に登場する三次町の太歳神社。「訪れてみたい日本のアニメ聖地 88」に選ばれた。© 宇河弘樹 / 少年画報社



▲ 佐々木さんの、地元へ伝わる妖怪「ことりぞう」の話は、会場も聞いたことがあると頷いていました。



▲ 「妖怪は人間の心の中で生まれ育つもの。今も私たちのそばにいます」と、宇河さん。

### 横谷神楽団 神楽上演



横谷神楽団が創作した神楽演目「稲生平太郎」が上演されました。平太郎が比叡山に登り、妖怪が次々と自宅に押し寄せてくるようになったが、妖怪に屈することなく、山本五郎左衛門から木槌を与えられる、という一連のストーリーを神楽化した演目です。妖しい雰囲気も表現しながら、普段見る神楽とはひと味違う神楽を楽しんでいただきました。

今回のイベントに参加された方からは、「妖怪の世界が怖いだけではなく親しみやすいものだと知った」「作家さんお二人の話をもっと聴いてみたい」「神楽が斬新で素晴らしい」と、感想をいただきました。